

## 防災マップとは

『防災マップ』とは、自然災害（火山噴火や洪水、地震、津波など）による被害を予測し、予測される災害の発生地点や被害の範囲、避難場所などの情報が地図上に示されており、ハザードマップ、災害予測図、危険区域予測図とも呼ばれています。



## 防災マップはなぜ必要なの

市は、これまで河川改修などを行い、防災の役割を果たす施設を整備してきましたが、予想を超える災害が起こる可能性は否定できません。施設の整備というハード面では対応しきれない部分は、ソフト面で補わなくてはなりません。

ソフト面で災害による被害を最小限に抑えるためには、災害に対する正しい知識や災害時の対応を市民の皆さんにお知らせして、防災意識を高める必要があります。



▲昭和58年9月大雨災害

このため、災害に対する備えや災害時の避難、危険回避などの市民の自主的な行動を支援するために『防災マップ』が必要になります。

平成12年の有珠山噴火の際には、事前に住民に配布されていた『防災マップ』に従い、住民や観光客が避難した結果、人的被害を防ぐことができたことで注目されました。

## 防災マップ作成の取り組み

市は、自分の住むまちに予想されるさまざまな災害の危険性を回避し、災害から市民の生命・財産を守るため、平成17年度から室蘭テクノセン

ターに委託し、室蘭工業大学環境科学・防災研究センターとの共同研究として『防災マップ』の作成を進めてきました。

『防災マップ』の作成に当たっては、過去に大きな被害をもたらした大雨・洪水と、突然発生し甚大な被害を及ぼすことが予想される地震・津波、火山噴火の災害について、規模と被害の程度、被害の範囲について調査・研究を行ってきました。



▲防災マップ作成に伴う調査

## 防災マップの活用

『防災マップ』には、市の防災に対する取り組みや市民の皆さんの災害に対する心構え、災害予想区域図（土砂災害や洪水・津波、火山噴火）、町内会等ごとの災害別避難所一覧表などを掲載しています。

災害はいつ起こるか分かりません。

そのため、事前にどこが危険なのか危険が迫った時にどういう行動をとればいいのか。災害に備えて日ごろからどういう準備をすればいいのかなど、この『防災マップ』を活用し、自分たちの地域や家庭での防災について、もう一度点検してみよう。

## 防災に対する心構え

防災対策は、「これだけやれば絶対安全」ということはありません。予想を超える災害が起こる可能性があります。

災害の種類や規模によっては、避難経路として考えていた道路が通れないことや、想定された避難場所以外の場所に避難しなければならないこともあります。自分だけは大丈夫で安全だとは思わずに、防災に対する心構えをしっかりと持ちましょう。

